

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01197

研究課題名（和文）東北アジアにおける戦後日本思想 加藤周一、丸山眞男、竹内好、鶴見俊輔を軸として

研究課題名（英文）Japanese thought of the post-war in Eastern-Northern Asia

研究代表者

鷲巣 力（WASHIZU, Tsutomu）

立命館大学・衣笠総合研究機構・プロジェクト研究員

研究者番号：30712210

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,500,000円

研究成果の概要（和文）：研究成果は3つが挙げられる。第1は他の研究機関との共同研究を進めたことである。2017年以降の丸山眞男比較思想研究センターとの共同研究および共同発表は当該期間も継続した。共同研究会や共同企画展示、そして両研究センターの監修で、共著を刊行して、研究成果を世に問うた。東京大学東アジア藝文学院との共同公開討論会も新たに始め、これは今後の継続する予定である。

第2は研究にかかわる研究者が国内にとどまらず、中国人研究者、韓国人研究者にまで広げることができたことである。これは今後の国際的研究への礎になる。

第3は研究センター報告を刊行しただけではなく、一般読者を対象とする書籍も刊行したことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

丸山眞男、加藤周一、鶴見俊輔という戦後日本思想を代表する知識人を軸にして、戦後思想を日本という枠組みだけでなく、東北アジアという枠組みで捉えるには、中国の研究者や韓国の研究者との共同研究が必要である。本研究では中国人研究者や韓国人研究者を交えて、非西欧国が直面する近代化の問題について意見を交わし研究を進めることができた。

国内的には東京女子大学の丸山眞男記念比較思想研究センターとの研究提携に基づく研究「丸山眞男と加藤周一 知識人の自己形成」を筑摩書房より刊行したことも成果として挙げられる。また東京大学東アジア藝文学院との公開共同研究会を持ったことも、新しい研究方法として学術的意義があった。

研究成果の概要（英文）：We started the research of Post-war Japanese thought about Katoh Shuichi, Maruyama Masao, Takeuchi Yoshimi and Tsurumi Shunsuke not only from the viewpoint of Japan but also from the viewpoint of Eastern Northern Asia. Our purpose is the inquiry what Japanese thinkers have thought about Eastern Northern Asia and what the thinkers of Eastern Northern Asia have thought about Post-war Japanese thought. It is necessary for Chinese and Korean researchers to take part in the project.

There are three fruits. Firstly, Japanese and Chinese and Korean researchers could discuss the same problem. We could definitely know the differences among the Japanese viewpoint, the Chinese viewpoint and the Korean viewpoint. Secondly, we could know there is the same problem. The problem is 《Modernization》 Western Europe had made. How do we get on 《Modernization》. We have our own 《Traditional Culture》. Thirdly, we understand that it is effective for us each other to promote the interchange.

研究分野：戦後日本思想史

キーワード：戦後日本思想 加藤周一 丸山眞男 鶴見俊輔 東北アジア 近代化 雑種文化

## 1. 研究開始当初の背景

本研究計画は、2017年度から2019年度にかけて進めた基盤研究(B)の「加藤周一を軸にした戦後日本思想の検証」を継承し、発展させるものとして企画した。「東北アジアにおける戦後日本思想 加藤周一、丸山眞男、竹内好、鶴見俊輔を軸にして」と題した本研究が、前研究を引き継ぎながら、前研究と異にした点はふたつある。

ひとつの相違点は、研究対象を「加藤周一を軸にした戦後日本思想」から「加藤周一、丸山眞男、竹内好、鶴見俊輔を軸にした戦後日本思想」に拡大したことである。研究対象を拡大した理由は、そもそも本研究が立命館大学の「加藤周一現代思想研究センター」を基盤に始められ、東京女子大学の丸山眞男記念比較思想研究センターとの研究提携を進める過程で構想された研究計画であったことによる。したがって、加藤のほか丸山が研究対象となるのは当然として、それだけでは不十分だという認識があり、加藤と丸山とは対照的な思想家であり、かつ同時代の代表的な思想家である竹内と鶴見を加えることにしたのである。4人を研究対象とすることで、戦後日本思想を多角的に捉えることができると判断した。

もうひとつの相違点は、戦後日本思想をたんに日本という枠内に留めるのではなく、東北アジア、主として中国、韓国との関係で捉えようとしたことである。すなわち、戦後日本思想は、東北アジアをどのように見ていたのか、東北アジアから戦後日本思想はどのように見られていたのか、という問題を研究の基本に据えたのである。

このような研究を構想すれば、本研究を進めるのは日本の研究者だけでは不十分である。そこで中国・韓国の研究者にも、あるいは加藤周一現代思想研究センターの海外協力研究員として、あるいは日本国内で研究する中国・韓国の研究者として、本研究に参加してもらう体制を整える必要がある。このような研究体制は、中国や韓国に戦後日本思想を研究対象とする研究者がいなければ不可能である。幸いなことに、近年の中国・韓国の研究状況をみると、戦後日本思想を研究対象とする研究者が徐々に増えている。そのことは、日本、中国、韓国の研究者による共同研究体制をとることは、そう簡単ではないにせよ、十分可能であると判断した。そのような共同研究体制が首尾よく運ぶならば、それぞれの研究者に、違った観点からの研究を直接に体験できるわけで、それはそれぞれの国の研究者にとって有意義であると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究は4つの目的、あるいは副主題をもって始めた。第1は「戦後日本思想のアジアへのまなざし、アジアからのまなざし」を明らかにすることである。第2は「雑種文化論の射程」を検討することである。第3は「戦争体験の意味」を問うことであり、第4が「加藤周一手稿ノートのデジタルアーカイブ化」である。

(1)「戦後日本思想のアジアへのまなざし、アジアからのまなざし」について

戦後日本思想は 加藤周一、丸山眞男、竹内好、鶴見俊輔を軸として 東北アジアをどのように見てきたか、東北アジアは戦後日本思想をどのように捉えてきたか。この問題を解くことは、それぞれの国に根付いているものの考え方、すなわちそれぞれの国の思想を明らかにすることでもある。ひいては今日の日中韓関係を考える場合にも重要な示唆を与えることにもなるだろう。

(2)「雑種文化論の射程」について

近代日本にとって大きな課題は一貫して「近代化」という問題にあった。そもそも「近代化」は西欧がつくりだした文化である。日本を含めた東北アジアのように非西欧国にとっては、西欧出自の「近代文化」と自分の国の「伝統文化」との折り合いの付け方が共通の問題として横たわっている。加藤はフランス留学から帰り、雑種文化という概念で、日本文化の歩む道を提示したが、その問題は東北アジアに共通して存在する問題である。これをどのように考えるか、という問題を指定した。

(3)「戦争体験の意味」について。

本研究の対象である4人の知識人はそれぞれに、十五年戦争(鶴見の命名)や太平洋戦争の体験をもつ。丸山は二等兵として応召し、かつ広島で被爆する。加藤はみずからは召集されなかったが、親友を戦争で失い、敗戦直後に広島で原子爆弾影響日米合同調査団の一員として調査と治療に当たった。竹内は応召して中国で敗戦を迎える。鶴見は太平洋戦争が始まったときにアメリカに留学していたが、日米交換船で帰国する。そもそも生死の境にさまよう戦争体験というものは、本人にとって重いものである。それぞれの戦争体験は、彼らの思想にどのような影響を与えたかを明らかにすることを目標とした。

(4)「加藤周一手稿ノートのデジタルアーカイブ化」について。

これは前研究からの継続である。同時に本研究の基礎部分をなし、重要な研究材料を提供し、研究成果として社会的発信に供せられるものである。これまでも手稿ノートのデジタルアーカイブ化を進めており、本研究が始まる直前の2020年3月時点で26タイトルがデジタル化され

ていた。そのなかからすでに『加藤周一青春ノート(抄)』(人文書院、2019年)を刊行し、『加藤周一日記』(平凡社、未刊)の刊行が決まっている。

ノートのデジタルアーカイブ化は、研究提携している東京女子大学の丸山眞男記念比較思想研究センターでも、丸山の遺したノートをデジタル化しており、デジタル化されたノートを閲覧することで、加藤の思想と丸山の思想を比較検討することを可能にすると判断した。

### 3. 研究の方法

#### (1) 研究方法

##### 概要

「研究の目的」で述べたように、本研究は4つの副主題をもっており、4つの分科会を組織して進めることとした。しかし4つの分科会は別個の問題を研究対象とするのではなく、相互に関連する問題を研究対象としているのであり、4つの分科会研究を総合する必要がある。

同時に研究会内部のみの研究を進めるのではなく、講演会や講読会を並行的に行うことによって、研究会以外の研究者の戦後日本思想についての分析を聞くこと、さらには市民たちの反応を実際に見聞することで、戦後日本思想を多角的に検討することができる方法を模索した。

こうして、各研究員の個人的な研究、各分科会の読書会、研究会、研究会全体の研究会、そして研究メンバー以外の研究者による講演会、他の研究組織と共同企画として行われる研究会への参加、さらに市民が参加する公開講読会を構想した。このようにして得られた研究成果は、可能な限り書籍として刊行することを志向した。

##### 基本文献の読み込み

本研究のすべての研究員に、加藤、丸山、竹内、鶴見の著作からアジアに関する著作を読んでおいてもらうことをもとめた。研究対象者の同じ主題をもつ著作を読んでおくことが、共同研究の基礎になるという判断からであった。

##### 加藤の手稿ノートの読み込み

本研究の基礎となる加藤周一の手稿ノートをデジタルアーカイブとして公開しているのので、そのデジタル化されたノートを閲覧することも求めた。これも問題意識の進化と共有を可能にし、研究主題に関する共通理解を確かなものとするための方法だと位置づけた。

##### 分科会研究会

個人による基本文献とデジタル化された手稿ノートの読み込みを踏まえて、各分科会での主題を設けて、その主題に関する報告・討議を行うこととした。このようにすることも、問題意識の共有が図れると判断したからである。

##### 総合研究会

すべての研究メンバーを対象とする研究会を開き、それぞれの分科会の研究について報告を受け、さらにその報告に関する討議を行うことによる方法を探った。

##### 社会的発信

社会的発信としては4つの方法を計画した。第1は講演会を催して発表することである。講演会講師は、本研究参加研究者以外の研究者を招聘した。講演会は入場料を無料とすることで、市民の参加を促した。第2は市民も積極的に発言することができる公開講読会を、2019年9月に始めていたが、これを引き続いて行うこととした。第3は丸山記念比較思想研究センターとの共同企画展示を行って、これをパネル展示とWEB展示との両方で行うこととした。第4に研究成果を研究書として刊行するだけでなく、市民も購読できる一般書として刊行することを予定した。

#### (2) 研究体制

本研究は1名の研究者代表のもと、9名の研究分担者と15名の研究協力者による共同研究として進めた。都合25名の研究者の役割分担を4つの分科会として組織した。研究体制は以下の通り、肩書は2023年3月現在。

研究者代表：鷲巢力（立命館大学衣笠総合研究機構プロジェクト研究員）総合統括

研究代表補佐：加國尚志（立命館大学教授）総合統括補佐

研究代表補佐：樋口陽一（東京大学名誉教授、加藤周一文庫顧問）総合統括相談役

第1分科会（戦後日本思想の東北アジアへのまなざし、東北アジアからのまなざし）

小関素明（分科会責任者、研究分担者、立命館大学教授、近代日本思想史）

三浦信孝（研究分担者、中央大学名誉教授、フランス語・フランス思想研究）

李成市（研究分担者、早稲田大学教授、東アジア古代史）

金子元（研究分担者、秀明大学講師、丸山眞男記念比較思想研究センター員、近代日本思想史）

宮村治雄（研究協力者、都立大学名誉教授、近代日本思想史）

龍澤武（研究協力者、東アジア出版人会議事務局長）

孫歌（海外研究協力者、中国社会科学院、戦後日本思想史）

林慶澤（海外研究協力者、韓国全北大学教授、文化人類学）

王中忱（海外協力研究者、中国・清華大学教授、日中比較文学）

第2分科会（雑種文化論の射程） 加國尚志（分科会責任者、研究分担者、立命館大学教授、フランス哲学）

小関素明（研究分担者、立命館大学教授、近代日本思想史）  
 樋口陽一（東京大学名誉教授、加藤周一文庫顧問、憲法）  
 三浦信孝（研究分担者、中央大学名誉教授、フランス語・フランス思想研究）  
 李成市（研究分担者、早稲田大学教授、東アジア古代史）  
 ジュリー・ブロック（研究協力者、京都工芸繊維大学名誉教授、近代日本文学）  
 野口雅弘（研究協力者、成蹊大学教授、政治学・政治思想史）  
 石塚純一（研究協力者、札幌大学名誉教授、出版学）  
 彭佳紅（研究協力者、帝塚山大学教授、近代日本文学）  
 ソーニャ・アンツェン（海外研究協力者、トロント大学名誉教授、日本文学）  
 林慶澤（海外研究協力者、韓国全北大学教授、文化人類学）  
 王中忱（海外協力研究者、中国・清華大学教授、日中比較文学）  
 第3分科会（戦争体験の意味）  
 福岡良明（分科会責任者、研究分担者、立命館大学教授、戦争社会学）  
 小関素明（研究分担者、立命館大学教授、近代日本思想史）  
 富永京子（研究分担者、立命館大学准教授、社会学・社会運動）  
 李成市（研究分担者、早稲田大学教授、東アジア古代史）  
 金子元（研究分担者、秀明大学講師、丸山眞男記念比較思想研究センター員、近代日本思想史）  
 中尾麻伊香（研究分担者、広島大学准教授、科学史・医学史）  
 孫歌（海外研究協力者、中国社会科学院、戦後日本思想史）  
 ソーニャ・アンツェン（海外研究協力者、トロント大学名誉教授、日本文学）  
 第4分科会（加藤周一手稿ノートデジタルアーカイブ化）  
 鷲巣力（分科会責任者、研究代表者、立命館大学衣笠総合研究機構プロジェクト研究員、戦後日本思想史）  
 半田侑子（研究協力者、立命館大学衣笠総合研究機構研究員、日仏比較文学論）  
 西澤志志（研究協力者、立命館大学先端研究所後期博士課程、音楽批評学）  
 福井 優（研究協力者、立命館大学文学研究科後期博士課程、近代日本思想史）  
 狩野晃一（研究協力者、立命館大学文学研究科前期課程、近代日本思想史）  
 蛸子良風（研究協力者、立命館大学文学研究科後期博士課程、フランス哲学）

#### 4. 研究成果

研究成果については年度ごとに述べる。

##### 2020 年度

20 年度の研究実績は、コロナ禍による対面交流の禁止と研究代表者鷲巣の重傷事故による二度の手術と二度の入院により、計画は必ずしも思うように進まなかった。

まず、2019 年度に東京・日仏会館と立命館大学加藤周一研究センター（センター長は本研究の研究代表者の鷲巣）は、加藤周一生誕百年記念国際シンポジウム「加藤周一を 21 世紀に引き継ぐために」を共催したが、20 年 9 月にその講演録『加藤周一を 21 世紀に引き継ぐために』を水声社から刊行した（総頁 464 頁）。本書には本研究メンバーの樋口陽一、鷲巣力、三浦信孝、小関素明、李成市が寄稿した。

同じく 9 月には日仏会館主催の「加藤周一記念講演会」で研究者代表の鷲巣力が「なぜ『日本文学史序説』は書かれたのか」と題するオンライン講演を行った。

また東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センター主催のオンラインによる公開研究会「松本礼二著『20 世紀比較思想史と丸山眞男』を読む」に、鷲巣が報告者として参加した。なお同研究会の記録は丸山眞男記念比較思想研究センター編の『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第 16 号に掲載された。

丸山眞男研究センターとの研究提携は 3 年目を迎え、加藤研究チームが企画した「加藤も丸山も映画大好き！ 我を人と成せし者は映画」という共同展示を行なった。これは双方の学内での展示と同時に、オンラインで広く公開した。

また、コロナによって中断していた公開講読会「『羊の歌』を精読する」を 12 月に再開し、以降 3 月まで、毎月 1 回ずつ行なった。この講読会は回を追うごとに参加者が増えている。本研究計画の社会的発信としては一定の成果を上げていると考える。

コロナ禍と研究代表者の鷲巣の重傷事故により、共同研究会の開催がむつかしくなり、研究メンバーには次年度の活動に備えて、各自の研究を進めるように依頼した。それぞれの研究員が「東アジアにおける戦後日本思想」を理解する上での基礎的な作業を進めた。

##### 2021 年度

21 年度の研究実績は以下の研究を軸にして進めた。第 1 は、2019 年に東京日仏会館との共催で催した「加藤周一生誕百年記念国際シンポジウム」の記録は『加藤周一を 21 世紀に引き継ぐために』（水声社、2020 年）として刊行された。2021 年 5 月には、これを延長させるために同書の合評会をオンラインで催した。この合評会にはシンポジウムに参加した講師のみならず質疑応答で貴重な意見を出された先生方、新たに本研究計画に加わった中国研究者も参加した。そしてこの合評会の記録を少数数であるが冊子として 2022 年 3 月に刊行した。この冊子は本研究の

礎になるものと位置づけている。

なお本冊子を編集したのは半田侑子研究員であるが、同氏が『立命館大学人文科学研究所紀要』（2021年12月）に発表した「『雑種文化論』の成立について」という論文は、本研究にすこぶる寄与する論文だった。

第2は、東北アジアの近代化を考える場合に、日本の近代化のなかで、際立って華々しい実績を残している建築の分野は重要な示唆を与える。そこで建築家隈研吾氏を「加藤周一記念講演会」の講師に招聘し、隈研吾氏が加藤をはじめ戦後思想をどのように建築の世界に活かしたかという主題で講演した。この講演は研究の社会的発信であるとともに、本研究計画の核心に迫る講演であり、示唆に富むものであった。

第3は、東京女子大学の丸山眞男記念比較思想研究センターとの研究提携の第4弾として「知識人の自己形成 丸山眞男・加藤周一の生誕から敗戦まで」という主題の共同企画展示を両大学で同時に開催した。戦後日本思想を代表する思想家である丸山と加藤の自己形成を通して、戦後日本思想がいかなるものであったかを分析する試みである。この試みは、加藤の自伝的小説である『羊の歌』を市民とともに精読する作業と通底する。

## 2022年度

本研究では、21年度に東北アジアにおける戦後日本思想を全体的に見渡した研究を進めたが、22年度には代表的な戦後日本思想家の加藤周一、丸山眞男、鶴見俊輔を取りあげ、それぞれの思想家について、中国、韓国および日本の研究者が、どのように評価するかという問題に取り組んだ。したがって研究会にも、社会的発信としての講演会にも、韓国人および中国人の研究者に参加を要請した。研究会や講演会は、対面方式とウェビナー方式を併用して、研究者のみならず、市民や学生にも参加できるように図った。こうして加藤周一記念講演会では韓国人研究者を招いて研究者と市民に向けて発信した。

研究会としては中国人研究者劉争に「加藤周一『日本文学史序説』で主張される「例外」的知識人をめぐる問題」について報告を受けた。ウェビナーでは中国人、韓国人も多く参加した。

研究としては、丸山眞男と加藤周一の出生から敗戦時までの自己形成に焦点を当てる研究を進め、中国人研究者や韓国人研究者の意見を取り入れながら、成果としては筑摩書房から『丸山眞男と加藤周一 知識人の自己形成』を刊行した。これは東京女子大学の丸山眞男記念比較思想研究センターと立命館大学の加藤周一現代思想研究センターとの共同監修のもとに進めた。共同研究の新しい形を提示できたのではないかと。

さらに新しい試みにも挑戦した。東京大学東アジア藝文学院との共催「日本の知識人、その宗教と周辺 鶴見俊輔、加藤周一、林達夫」と題して、公開共同研究会を催した。日本の知識人の宗教観を主題とした研究会であった。

立命館大学の「土曜講座」にて、協力研究員の半田侑子、劉争、それに伊藤綾（ジュネーヴ大学）および翁家慧（北京大学）による「日本の知識人の「母」研究 丸山眞男と鶴見俊輔の場合」の研究発表を行った。

本研究は主として加藤周一現代思想研究センターを基盤として進めているが、同研究センター報告を「準備号」として発刊した。ここには戦後日本思想に関心をもつ内外の研究者に寄稿を依頼した。社会的発信の一つとして市民を対象にした公開講読会も数えて36回になったが、中国・韓国からのオンライン参加も増えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計35件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 鷲巣力	4. 巻 21
2. 論文標題 壮大な挑戦と平俗な蹉跎 加藤周一が見た横光利一	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 横光利一研究	6. 最初と最後の頁 1,22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鷲巣力	4. 巻 準備号
2. 論文標題 「加藤周一文庫」と加藤周一の方法	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 加藤周一現代思想研究センター報告	6. 最初と最後の頁 1,20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 加國尚志	4. 巻 準備号
2. 論文標題 加藤周一の「眼」と「耳」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 加藤周一現代思想研究センター報告	6. 最初と最後の頁 21,29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 加國尚志	4. 巻 680
2. 論文標題 密着における乗り越え メルロ＝ポンティ『パロールの問題 一九五三 一九五四 コレージュ・ド・フランス講義ノート』についての一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 345,364
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小関素明	4. 巻 準備号
2. 論文標題 加藤周一の死生観の相貌	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 加藤周一現代思想研究センター報告	6. 最初と最後の頁 31,39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福間良明	4. 巻 73(3)
2. 論文標題 井川允雄著『帝国をつなぐ 声』（書評）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 309,310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富永京子	4. 巻 67(1)
2. 論文標題 『書くこと』による読者共同体の形成メカニズムー若者雑誌『ピックリハウス』の投稿を事例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ソシオロジ	6. 最初と最後の頁 99,116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口陽一	4. 巻 3月28日
2. 論文標題 大江健三郎 ことばが照らす先 日本と日本人という自分 思索と行動と	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 朝日新聞	6. 最初と最後の頁 30,30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Youichi Higuchi	4. 巻 26
2. 論文標題 La theorie constitutionnelle du Prof. Rene Capitant	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Jus Politicum	6. 最初と最後の頁 98,115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦信孝	4. 巻 準備号
2. 論文標題 初出主義の重要性ー加藤主一文庫の『羊の歌』講読会と「加藤周一おしゃべりの会」をつなぐ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 加藤周一現代思想研究センター報告	6. 最初と最後の頁 115,125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李成市	4. 巻 10
2. 論文標題 「在日」にとって古代史とはなんであったのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 抗路	6. 最初と最後の頁 98,115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子元 (翻刻・校訂)、丸山眞男、石田雄	4. 巻 18
2. 論文標題 一九八四年七月一三日「政党と異端」研究会記録	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 丸山眞男記念比較思想研究センター報告	6. 最初と最後の頁 76,123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 鷲巢力	4. 巻 91
2. 論文標題 なぜ『日本文学史序説』は書かれたのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日仏文化	6. 最初と最後の頁 71、87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小関素明	4. 巻 129
2. 論文標題 「天皇制と『大東亜戦争』関与の精神構造 負い目と擬態の精神史」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 7、90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福間良明	4. 巻 1
2. 論文標題 安田武と「語り難さ」へのこだわり	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 安田武『戦争体験 1970年への遺書』	6. 最初と最後の頁 279、297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦信孝	4. 巻 91
2. 論文標題 クローデル・日仏会館・渡邊守章	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日仏文化	6. 最初と最後の頁 29、37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦信孝	4. 巻 91
2. 論文標題 ミッシェル・ワッセルマン「ポール・クロードルの日本の世紀」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日仏文化	6. 最初と最後の頁 3、19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李成市	4. 巻 26
2. 論文標題 東アジアの文字交流と論語 - 韓半島論語木簡を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『木簡と文字』	6. 最初と最後の頁 15、32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李成市	4. 巻 6
2. 論文標題 朝鮮史の形成と展開	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩波講座世界歴史	6. 最初と最後の頁 241、270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子元 (編集・校訂)、丸山眞男、石田雄	4. 巻 17
2. 論文標題 丸山眞男・石田雄「一九八八年五月二六日「正統と異端」研究会記録	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京女子大学比較文化研究所附置丸山眞男記念比較思想研究センター報告	6. 最初と最後の頁 69、87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾麻伊香	4. 巻 57
2. 論文標題 「反核」「平和」と原爆被害をめぐる言説	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 平和研究	6. 最初と最後の頁 57、79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鷲巣力	4. 巻 1
2. 論文標題 加藤周一『日本文学史序説』が意味すること	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤周一を21世紀へ引き継ぐために	6. 最初と最後の頁 421, 441
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鷲巣力	4. 巻 16
2. 論文標題 二十世紀日本思想史への構想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 丸山眞男記念比較思想研究センター報告	6. 最初と最後の頁 23, 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加國尚志	4. 巻 47
2. 論文標題 メルロ=ポンティにおける現象学と形而上学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 哲学論叢	6. 最初と最後の頁 1, 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口陽一	4. 巻 1
2. 論文標題 加藤周一は「洋学紳士」か、それとも「日本人論」者か？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤周一を21世紀に引き継ぐために	6. 最初と最後の頁 29, 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口陽一	4. 巻 75(2)
2. 論文標題 清宮憲法と宮沢憲法 日本憲法学における私の二師	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本学士院紀要	6. 最初と最後の頁 103, 120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦信孝	4. 巻 1
2. 論文標題 ヴァレリーを読む加藤周一 小林秀雄のヴァレリーとの比較において	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤周一を21世紀に引き継ぐために	6. 最初と最後の頁 225, 249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李成市	4. 巻 1
2. 論文標題 韓国から見た「雑種文化論」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤周一を21世紀に引き継ぐために	6. 最初と最後の頁 367, 389
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富永京子	4. 巻 22
2. 論文標題 「社会運動する若者」はどのように存在しうるのか？ 消費社会に「対抗」し、「やり返し」、「利用する」主体の運動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会文化研究	6. 最初と最後の頁 29, 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富永京子	4. 巻 33
2. 論文標題 若者文化における政治への関心と冷笑 雑誌『ピックリハウス』を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報社会学論集	6. 最初と最後の頁 85, 96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富永京子	4. 巻 12(2)
2. 論文標題 Protest journey: the practices of constructing activist identity to choose and define the right type of activism	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Interface	6. 最初と最後の頁 19, 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 猪原透	4. 巻 37
2. 論文標題 「国家主義の理想」を求めて 牧野英一思想形成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本思想史研究会会報	6. 最初と最後の頁 28, 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子元	4. 巻 18
2. 論文標題 眞作麟祥『泰西勸善訓蒙』続編（国政論）にみる英米モラル・フィロソフィー受容の一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 秀明大学紀要	6. 最初と最後の頁 89, 101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾麻伊香	4. 巻 65（1）
2. 論文標題 Radium traffic: Radication, science, and spiritualism in early twaentieth-century Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Medical History	6. 最初と最後の頁 32, 45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾麻伊香	4. 巻 1
2. 論文標題 ABCCの被爆者調査 治療と調査をめぐる攻防	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 核と放射線の現代史 開発・被ばく・抵抗	6. 最初と最後の頁 32, 45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 12件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 鷺巣力
2. 発表標題 林達夫と聖フランチェスコ、加藤周一とカソリック
3. 学会等名 東京大学東アジア藝文学院公開研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小関素明
2. 発表標題 災害と人文社会科学が向き合うべき課題 災害は民主政治にどのような影響を及ぼすのか 人文・社会科学の意義を見つめ直す
3. 学会等名 立命館大学土曜講座
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 富永京子
2. 発表標題 Who meets the Perfect Standard of a "Real Feminist? Writing by Feminist Activists in Japan
3. 学会等名 AFPP Conference
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鷺巣力
2. 発表標題 なぜ加藤周一『日本文学史序説』は書かれたのか
3. 学会等名 中国・東方文学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鷺巣力
2. 発表標題 加藤周一『日本文学史序説』の持つ特徴
3. 学会等名 北京大学・サマースクール（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鷲巢力
2. 発表標題 壮大な挑戦と平俗な蹉跎 加藤周一が観た横光利一
3. 学会等名 横光利一文学研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加國尚志
2. 発表標題 From World Philosophy to Wild Philosophy --Possibility of intercultural phenomenology after Eurocentrism”, in “What after Eurocentrism, Phenomenology and Intercultural Philosophy”
3. 学会等名 香港中文大学（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小関素明
2. 発表標題 公権力の純理の批判的考察と民主制 - 『ステークホルダー型国民民主権』への展望 -
3. 学会等名 協同主義研究会 <主催者： 雨宮昭 一>（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鷲巢力、加國尚志、小関素明、三浦信孝、金子元、半田侑子
2. 発表標題 『加藤周一を21世紀に引き継ぐために』合評
3. 学会等名 加藤周一現代思想研究センター
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 李成市
2. 発表標題 接境地域における文字傳達 憲康王12年「木書十五字」を中心に
3. 学会等名 國際共同學術大会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 李成市
2. 発表標題 生命分子論から見た文化論 - 日韓比較文化論を中心に
3. 学会等名 第13回東アジア人文学フォーラム「学科的交叉与融合」（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中尾麻伊香
2. 発表標題 Nagasaki and the Survivors of the Atomic Bomb
3. 学会等名 United Nations Office for Disarmament Affairs (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中尾麻伊香
2. 発表標題 Making Radiation Effects (In)Visible: Discourses and Representations on Atomic-Bomb Victims
3. 学会等名 メディア・プロパガンダ・サイエンス（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鷲巢力
2. 発表標題 なぜ『日本文学史序説』は書かれたのか
3. 学会等名 日仏会館（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鷲巢力
2. 発表標題 松本礼二『知識人の時代と丸山眞男』合評会
3. 学会等名 丸山眞男記念比較思想研究センター（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加國尚志
2. 発表標題 芸術の現象学序説
3. 学会等名 風景論研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 李成市
2. 発表標題 自著に対する弁明　なぜ東アジアなのか
3. 学会等名 ソウル大学 東亜文化研究所（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 李成市
2. 発表標題 東アジアの文字交流と論語 韓半島の論語木簡を求めて
3. 学会等名 韓国木簡学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 鷲巣 力	4. 発行年 2022年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 328
3. 書名 書く力 加藤周一の名文に学ぶ	

1. 著者名 山辺 春彦、鷲巣 力、東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センター、立命館大学加藤周一現代思想研究センター	4. 発行年 2023年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 丸山眞男と加藤周一	

1. 著者名 東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センター、和田 博文、山辺 春彦	4. 発行年 2023年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 360
3. 書名 近現代日本思想史 「知」の巨人100人の200冊	

1. 著者名 Yoichi Higuchi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Societe de Legislation Comparee	5. 総ページ数 154
3. 書名 Valeurs et technologie du droit constitutionnel	

1. 著者名 樋口陽一	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 230
3. 書名 戦後憲法史と並走して 他分野交流と環海往還の小・自分史	

1. 著者名 三浦 信孝、村田 京子、小野 潮、柏木 隆雄、西永 良成、エリック・アヴォカ、関谷 一彦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 244
3. 書名 作家たちのフランス革命	

1. 著者名 加國 尚志、亀井 大輔、マーティン・ジェイ、長澤麻子、田邊正俊、和田渡、神田大輔、黒岡佳柁、佐藤 勇一、鈴木崇志、横田祐美子、松田智裕、日暮雅夫	4. 発行年 2023年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 342
3. 書名 視覚と問文化性	

1. 著者名 福間良明	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 296
3. 書名 司馬遼太郎の時代	

1. 著者名 山崎 望、富永京子、早川誠、森政稔、小川有美、敦夫隆佑、内田智、板橋拓己、大竹弘二、山本圭	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 312
3. 書名 民主主義に未来はあるのか？	

1. 著者名 樋口陽一、蟻川恒正、木庭顕（編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 160
3. 書名 憲法の土壌を培養する	

1. 著者名 ミシェル・ワッセルマン著（三浦信孝・立木康介）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 249
3. 書名 ポール・クロードルの黄金の聖櫃	

1. 著者名 金子元	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国立国会図書館憲政資料室	5. 総ページ数 90
3. 書名 阪谷希一;・阪谷芳直関係文書目録	

1. 著者名 三浦信孝、鷲巣力、樋口陽一、ピエール=フランソワ・スイリ、小熊英二、イルメラ・日地谷=キルシュネライト、水村美苗、ソーニャ・アンツェン、ジュリー・ブロック、山元一、三浦篤、片岡大右、海老坂武、澤田直、西谷修、白井聡、奈良勝司、孫歌、池澤夏樹、李成市、林慶澤、王中忱、小関素明ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 464
3. 書名 加藤周一を21世紀に引き継ぐために	

1. 著者名 モーリス・メルロ=ポンティ、ドミニク・セグラール、松葉祥一、加國尚志	4. 発行年 2020年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 528
3. 書名 自然 コレージュ・ド・フランス講義ノート	

1. 著者名 小関素明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 496
3. 書名 日本近代主権と「戦争革命」	

1. 著者名 ジャン=ジャック・ルソー、ブレイズ・パコフェン、セリーヌ・スペクトール、ブリュノ・ベルナルディ、ガブリエラ・シルヴェストリーニ、永見 文雄、三浦 信孝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 440
3. 書名 ルソーの戦争 / 平和論	

1. 著者名 樋口 陽一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 528
3. 書名 憲法 第四版	

1. 著者名 在日韓人歴史資料館、李 成市	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 東アジアのなかの二・八独立宣言	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加國 尚志  (Kakuni Takashi)  (90351311)	立命館大学・文学部・教授   (34315)	
研究分担者	小関 素明  (Ozeki Motoaki)  (40211825)	立命館大学・文学部・教授   (34315)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	福間 良明  (Fukuma Yoshiaki)  (70380144)	立命館大学・産業社会学部・教授    (34315)	
研究分担者	富永 京子  (Tominaga Kyouko)  (70750008)	立命館大学・産業社会学部・准教授    (34315)	
研究分担者	樋口 陽一  (Higuchi Youichi)  (60004149)	東京大学・大学院法学政治学研究科（法学部）・名誉教授    (12601)	
研究分担者	李 成市  (Ri Sonshi)  (30242374)	早稲田大学・文学学術院・教授    (32689)	
研究分担者	三浦 信孝  (Miura Nobutaka)  (10135238)	中央大学・その他部局等・客員研究員    (32641)	
研究分担者	金子 元  (Kaneko Hajime)  (20869292)	秀明大学・学校教師学部・非常勤講師    (32513)	
研究分担者	中尾 麻伊香  (Nakao Maika)  (10749724)	広島大学・人間社会科学研究科（総）・准教授    (15401)	
研究分担者	猪原 透  (Inohara Tooru)  (70795963)	立命館大学・文学部・授業担当講師    (34315)	



7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------